

令和元年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	泉南 市議会
報告者	議長 竹田 光良 副議長 谷 展和 事務局長 西出 誠司
視察日時	令和元年7月25日(木) 13:30~15:30
視察先	茨城県 常総市
概要	<p>平成27年9月関東・東北豪雨災害について</p> <p>平成27年9月9日から11日にかけて関東地方および東北地方で発生した豪雨により、鬼怒川の堤防が決壊し、市の1/3が浸水したことにより、死者14名(災害関連死を含む)、負傷者44名の人的被害や住宅の全半壊、床上・床下浸水等の物的被害並びに農業の被害額は52.3億円にのぼる甚大な被害をもたらした。</p> <p>このことを踏まえ、今後の大規模災害における被害の軽減を図ることを目的に、水害対応に関する検証報告書を作成し、安全・安心なまちづくりを実現するため、市内の電柱へは想定浸水値の表示、防災行政無線による戸別受信機の機能拡張、また、市内の小中学校において、一斉の防災教育・訓練を行い、市の防災訓練もイベント型訓練から一斉実動訓練へとし、自主防災組織結成への後押しを行う等、様々な取組を進めている。</p>
所見	<p>平成27年9月関東・東北豪雨災害について</p> <p>昨秋、泉州地域に大きな被害をもたらせた台風21号。その際の災害対応において、本市においても課題であったが、市民に対する情報伝達について、防災行政無線、緊急速報メール、インターネット、広報車による地域を巡回する等、複数の手段による情報伝達の仕組みを構築することの重要性を再認識した。</p> <p>また、職員の災害対応についても、災害対応のために災害時の緊急対応モードに移行した後は、通常業務の枠にとらわれず、各自が柔軟に災害対応の業務に当たるよう、職員の意識付けを徹底する必要があるということを今回の視察で強く感じた。</p> <p>今後は、防災・減災のまちづくりを目指して、より一層、危機感をもって防災・減災対策に取り組んでいかなければならない。</p>

報告市議会	泉南 市議会
報告者	議長 竹田 光良 副議長 谷 展和 事務局長 西出 誠司
視察日時	令和元年7月26日(金) 9:30~11:30
視察先	千葉県 松戸市
概要	<p>子育て支援事業について</p> <p>日経DUALが調査した「共働き子育てしやすい街ランキング2017」で全国編1位に選ばれるなど、「やさシティ、まつど。」をスローガンに、「子どもにかけられるお金は未来に対する投資である」という基本理念のもと、市民のニーズに応じていくため、妊娠・出産・育児までの切れ目ない支援を進め、子どもや子育て世代にやさしい街づくりを進め、多くの人にとって「住み続ける価値の高い街」を目指している。</p> <p>主な取組は、1.乳幼児健診の充実や任意予防接種費用の一部助成など母子保健事業の充実。2.保育環境の整備として、①2019年4月時点で4年連続待機児童ゼロ(国基準)を達成。②市内全23駅の駅前・駅ナカに小規模保育施設を設置。③保育士確保への取組み(松戸手当の支給等)。3.幼児教育の充実として、市立保育所全17ヶ所の5歳児を対象に英語あそびを導入するなど、幼児教育の充実にも力を入れている。</p>
所見	<p>子育て支援事業について</p> <p>「子どもにかけられるお金は未来に対する投資である」という基本理念のもと、子育て支援の取組を進め、子育て情報サイト「まつどDE子育て」、まつどDE子育てLINEの導入等においてPRを実施したことにより広く認知され、転入人口が増加していることは大変魅力的である。</p> <p>また、大きな予算は必要になるが、保育士確保のために市独自の給料の上乗せ(松戸手当等)を実施したことも保育環境の整備のためには必要なものであると感じた。</p> <p>さらに、幼児教育の充実として、全公立保育所の5歳児を対象に、ネイティブ講師による「楽しい英語遊び」を実施している等、5歳児から中3まで10年間を「まつど英語」として充実させている。本市において、2020年度から小学校外国語教育について、ALTの活用を予定していることから、大変参考になった。</p> <p>今回の視察を通じ、家庭、地域、事業者、行政が協力し、社会全体で子どもの成長を支えていくことが大切であると再認識した。</p>

報告市議会	泉南 市議会
報告者	議長 竹田 光良 副議長 谷 展和 事務局長 西出 誠司
視察日時	令和元年7月26日(金) 13:30~15:00
視察先	東京臨海広域防災公園
概要	<p>(施設見学) そなエリア東京</p> <p>東京臨海広域防災公園は、大規模災害に備え、首都圏各地の広域防災拠点と連携しながら応急復旧活動を行う拠点として、都市再生プロジェクト決定に基づき、東京湾臨海部の基幹的広域防災拠点として整備された。有明の丘地区の担当機能は応急復旧活動の指揮、災害医療の支援、広域支援部隊等のベースキャンプであり、緊急物資輸送の拠点となる東扇島地区と一体的に運用される。</p> <p>当該公園内にある本部棟の1階には、本部会議室や緊急災害現地对策本部が設置されるオペレーションルーム等が整備されている。また、防災学習施設「そなエリア東京」が併設されており、防災体験ゾーンでは、地震発生後72時間の生存力をつける、体験学習ツアー「東京直下72hTOUR」等の防災体験学習ができ、2階では防災学習ゾーンとして首都直下地震特設コーナーをはじめとした様々な学習プログラムを利用することができる。</p>
所見	<p>(施設見学) そなエリア東京</p> <p>防災学習施設「そなエリア東京」の防災体験ゾーンにおいて、「東京直下72hTOUR」を体験した。タブレット端末を使ったクイズに答えながら生き抜く知恵を学ぶ防災体験学習ツアーである。大地震等の大規模災害発生時に国や自治体などの支援体制が十分に整うまでは、自力で生き残らなければならない。その目安が3日間、72時間と言われている。この体験から、一人ひとりが災害をイメージし、自分の身を自分で守ることが最も重要であると感じた。自分の命を守れなければ他の人や地域の安全を守ることができない。そのために防災の知識を身につけ、大規模災害が発生する前からそれに備えて防災グッズ、3日分の非常用食料等を常備しておくことが必要であることが分かった。</p> <p>また、災害発生時に首都圏広域の現地对策本部として機能するオペレーションルームを見学し、いついかなる災害にもすぐに対応できる体制が整っており、関西においても同様の施設が必要であると感じた。</p> <p>改めて、災害時、いざという時の「心構え」と「備え」、自助・共助を進める行政の取り組みの必要性について再認識した。</p>